

今週の為替相場見通し(2016年6月27日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		99.00 ~ 106.87	102.15	100.50 ~ 103.50
ユーロ	(ドル)		1.0912 ~ 1.1429	1.1110	1.0600 ~ 1.1300
(1ユーロ=)	(円)		109.30 ~ 122.00	113.55	108.00 ~ 115.00
英ポンド	(ドル)		1.3228 ~ 1.5022	1.3700	1.3200 ~ 1.4000
(1英ポンド=)	(円)	*	133.31 ~ 160.19	139.80	135.00 ~ 143.00
豪ドル	(ドル)		0.7305 ~ 0.7650	0.7460	0.7150 ~ 0.7650
(1豪ドル=)	(円)	*	72.53 ~ 81.62	76.31	72.00 ~ 80.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替営業第二チーム 島田 貴章

(1)今週の予想レンジ: 100.50 ~ 103.50 円

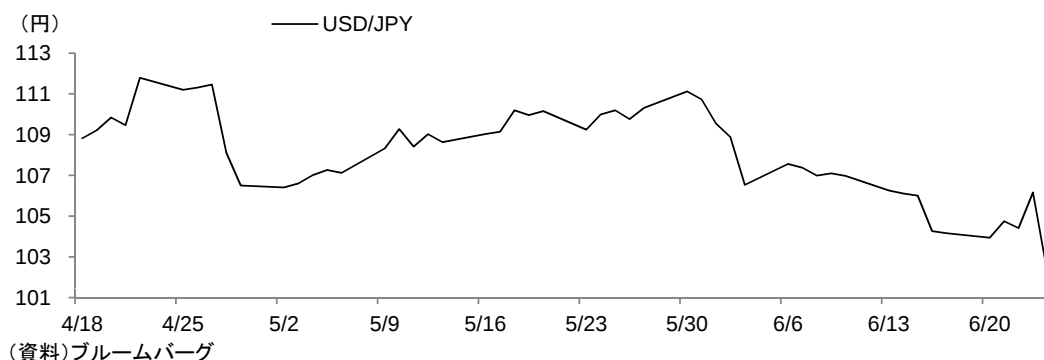
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は英国国民投票におけるEU離脱派勝利により大幅に下落した。ドル/円相場は週初20日に104円台半ばでオープン。翌21日、公表された日銀金融政策決定会合の議事要旨(4月27日~28日開催分)において「複数の委員が現行のマイナス金利に関して国債市場の安定性を損ねる」と指摘していた事が明らかとなり、ドル/円相場は103円台半ばまで下落。しかしながら同水準では買い意欲も旺盛で、株価上昇などもサポート材料となった結果、104円台後半まで水準を戻した。週央23日、目立った材料がない中、104円台後半での揉み合い推移が継続した。翌24日、英国国民投票の結果発表を翌日に控える中、残留派優勢との思惑が市場で高まりドル/円相場は106円台まで上昇。週末25日、投票結果の開票前には昨日の流れを引き継ぎドル/円相場は週高値となる106.87円まで上昇。しかしながら開票結果が報道され始めると、事前予想より離脱派が勝利する投票区が目立ち、ドル/円相場は下落。東京時間早朝の取引が薄い時間には106円ちょうど近辺から103円ちょうど近辺まで急落した。急落後は105円ちょうど近辺まで水準を戻したが、続く離脱派優勢報道を受けドル/円相場は週安値となる99.00円まで急落。その後、各報道機関から離脱派勝利報道がなされたが本タイミングでは既に円買い圧力は一巡しており、むしろ円買いポジションを一部手仕舞う動きからドル/円相場は103円台まで水準を戻し、102円台前半にて越週した。

今週のドル/円相場は上値重い展開を予想する。英国のEU離脱は市場のリスクセンチメント悪化という経路にて、ドル/円相場の上値を押さえる材料となろう。しかしながら、英国経済および世界経済への影響が定量的にどの程度になるかとの予想は、英国・EU間の新たな経済関係案の構築を待つ必要があり、そういった新材料がない限りにおいては更なる急落を想定しがたい。また、為替変動が再度大きくなる局面においては協調を含めた為替介入の可能性が存在していることも、ドル/円相場の急落を防ぐ要因となろう。従って、ドル/円相場は上値の重い緩やかな下落推移となることを予想する。この他、今週の主な経済指標・イベントとしては28日(火)に米4~6月期GDP(3次速報)、29日(水)に本邦5月小売売上高、米5月個人消費・個人支出及び米5月中古住宅販売契約、30日(木)に本邦5月鉱工業生産(速報値)、1日(金)に本邦5月全国消費者物価指数(CPI)、本邦日銀短観(6月調査)、米6月ISM製造業景気指数などの発表が予定されている。

(3)先週末までの相場の推移

先週(6/20~6/24)の値動き: 安値 99.00 円 高値 106.87 円 終値 102.15 円



2. ユーロ

為替営業第二チーム 橋 雄史

(1) 今週の予想レンジ: 1.0600 ~ 1.1300 108.00 ~ 115.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

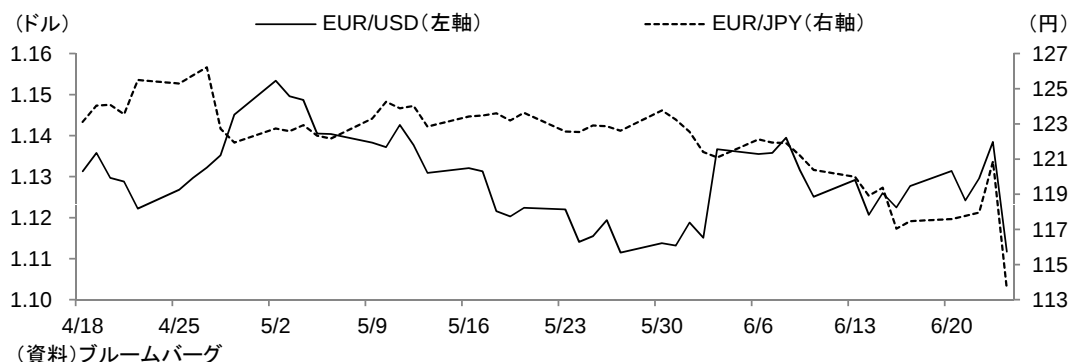
先週のユーロ相場は英国のEU離脱(Brexit)を問う国民投票の結果を受け、週末に大暴落する展開となった。週初20日、1.13台半ばでオープンしたユーロ/ドルは、1.13台後半まで上昇する場面が見られるも、ユーロ/ポンドが下落すると1.13台前半まで連れ安となった。21日にかけても、ユーロ/ドルが1.13台前半で軟調推移となる中、ドラギECB総裁の追加緩和を示唆する発言を受けてユーロ売りが強まり1.12台前半まで下落した。その後の22日は、ユーロの買い戻しが強まる中、ユーロ/ドルは1.13台前半まで値を戻す展開となり、23日には英国の世論調査において残留派優勢との結果が示されるとリスク回避姿勢の後退からユーロ/ドルは1.14台前半まで上昇した。その後、ドル買い優勢地合いにユーロ/ドルは1.13台前半まで反落するも、残留期待を背景とするユーロのショートカバーが強まり、1.13台後半まで上昇した。24日のユーロ/ドルは、英国の国民投票結果に注目が集まる中、東京午前6時頃に調査会社より残留リードとの報道が伝わると市場に安堵感が漂い、一時週高値となる1.1429まで上昇した。しかし、開票が進み大票田の一つであるサンダーランド地区で予想に反して離脱派が勝利するとムードが急変、ユーロ/ドルは1.13台から1.11台後半まで急落した。その後も開票結果に一喜一憂の展開となる中、ブックメーカーや各報道局から離脱優勢との報道がなされると、ユーロ/ドルは急落して週安値となる1.0912をつけた。その後はやや買い戻されたものの、海外市場でも株式市場が全面安となり、結局1.11台前半で越週した。一方、対円は118円台後半でオープン。その後は英国の国民投票結果を前に週を通じて方向感に乏しい展開となり、118円を中心としたレンジ推移となる。週末24日の東京時間早朝には、調査会社がEU残留優勢との結果を公表したこと、ドル/円が堅調推移を見せる中、週高値122.00円まで上伸する。その後開票が進み、サンダーランド地区で離脱が大幅リードになるとユーロ/円は120円台から116円台前半まで4円超の急落を見せた。一進一退の展開の中、EU離脱濃厚との報道が伝わると、ドル/円が一時99円台をつける展開に週安値109.30円をつけた。海外時間では小幅買い戻されるも、神経質な展開が続き、結局113円台半ばで越週した。

今週のユーロ相場は下落する展開を予想する。前週末は英国の国民投票で残留優勢との見方が一転、結果は予想外に離脱が過半数を占めてマーケットは大混乱となった。為替市場のほか、株式市場でも日経平均が1200円超の下落となり、イタリアのFTSE MIBでは▲7%超の下落が見られた。週明けもポンド相場が大きくギャップダウンして始まるなど、今週もBrexitに伴うリスクセンチメントの後退は継続しており、ユーロ相場は下落基調の継続が予想される。Brexitに伴うEU経済の失速のほか、イタリアではEU懐疑派政党である「5つ星運動」が勢いを増し、今月19日に投開票された統一地方選挙ではローマとトリノで当選を果たすなど、他国のEU離脱懸念も意識される。本日はECBフォーラムにおいてイエレンFRB議長・ドラギ総裁・カーニーBOE総裁の討論が予定されており、各国でBrexitに係る対応策が協議されるが、当面はユーロ/ドルの下押し圧力が継続しう。今週の主なイベントとしては28日～29日にEU首脳会議が、経済指標では30日(木)にユーロ圏6月消費者物価指数(HICP、速報値)、7月1日(金)にユーロ圏5月失業率の発表が予定されている。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(6/20～6/24)の値動き:

(対ドル)	安値	1.0912	高値	1.1429	終値	1.1110
(対円)	安値	109.30	高値	122.00	終値	113.55



3. 英ポンド

欧州資金部 屋田 祐太

(1) 今週の予想レンジ: 1.3200 ~ 1.4000 135.00 ~ 143.00 円

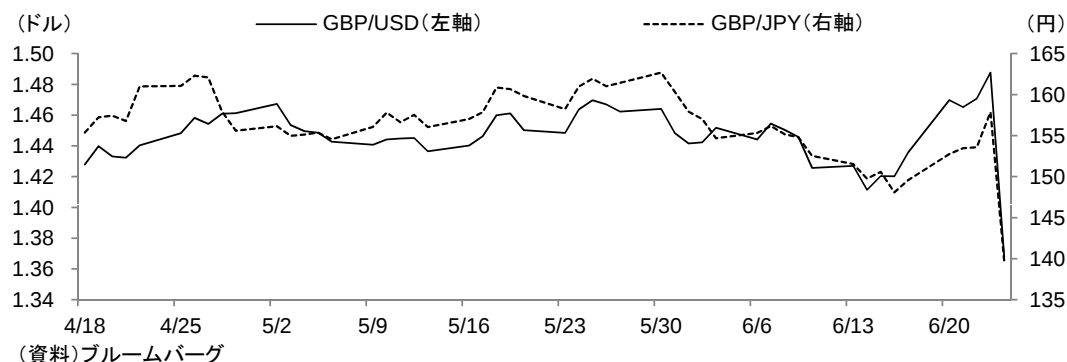
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、国民投票締め切り(23日午後10時)直後に年初来高値を更新後、英国国民投票における離脱の結果を受け大きく下落。16日(木)に起きた残留支持のジョー・コックス議員銃撃、死亡事件を受け、同情票が残留支持へ集まったことで英国内の世論は離脱優位から残留/離脱拮抗へと変化。この結果、リスクオフムードが一服、週初からリスク資産への資金回帰が見られ、20日(月)だけで英株は+3.0%超、英10年債金利は+10bp程度上昇。かかる環境下、ポンドは主要通貨に対し大きく値を戻した。特に対ドルでは2月にキャメロン首相が国民投票の実施を宣言して以来の高値まで上昇。その後も23日までは世論調査の結果に一進一退となりつつ高値圏で推移。国民投票締め切り直後も、締め切りとほぼ同時に発表されたYouGov社の出口調査で残留支持が52%と優勢になったことから、対ドルで1.50台を回復、年初来高値を更新した。しかし、23日(木)から24日(金)にかけて382ある各投票所の結果が発表され、徐々にEU離脱が濃厚となる中、午前4時前に有権者数が多いエジンバラ地区とバーミンガム地区の発表を受け残留派敗北が決定的となった結果、ポンドは対ドルで一時1.3228(1985年9月以来)と31年ぶりとなる水準まで大きく下落。対ユーロ、対円でもそれぞれ0.8318(2014年3月以来)、133.25(2012年12月以来)と下値を切り下げた。その後は自立反発的な動きから買い戻され、やや値を戻して越週した。

今週の英ポンド相場は、英政府、英中央銀行などの動きに左右される神経質な相場展開を予想する。ポンドの上値は限定的となる公算。24日(金)の国民投票の結果を受け、英キャメロン首相は記者会見を開き辞意を表明。英中銀カーニー総裁は同日9時には2,500億ポンドの追加供給を決定するとともに、躊躇無く追加措置を講じることを発表。また、各国政府および中央銀行も、市場の動きを注視し、市場安定化のために連携して必要な対応をとる姿勢を明確にした。EUから離脱することで英経済の後退は避けられないとの見方で市場が一致する中、ポンドは断続的な売り圧力にさらされることは間違いない。6月27日には臨時欧州委員会、6月27~28日の日程で欧州サミットが予定されているが、辞意を表明したキャメロン首相に積極的な姿勢は望むべくもない。また、離脱交渉の協調介入実施への期待もあるが、24日(金)のG7財務相、中央銀行総裁声明では「為替の過度な変動や無秩序な動きは経済、金融の安定に悪影響を与えうる」との表現までに留められており、突発性の低い今回のポンド安にG7が積極的に為替介入する可能性は低い。そのため、ポンドに対して短期的に市場の不透明感が払拭されることは難しく、上値の重い展開の継続を見込む。24日(金)に実施された今週の英経済指標は、29日(水)に英銀協(BBA)の5月住宅ローン承認件数、30日(木)に1~3月期GDP確報値、7日(金)に英6月製造業PMIが予定されているが、足許の環境下、相場が材料視する可能性は低い。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(6/20~6/24)の値動き: (対ドル) 安値 1.3228 高値 1.5022 終値 1.3700
(対円) 安値 133.31 高値 160.19 終値 139.80



4. 豪ドル

為替営業第二チーム 山本 一暁

(1) 今週の予想レンジ: 0.7150 ~ 0.7650 72.00 ~ 80.00 円

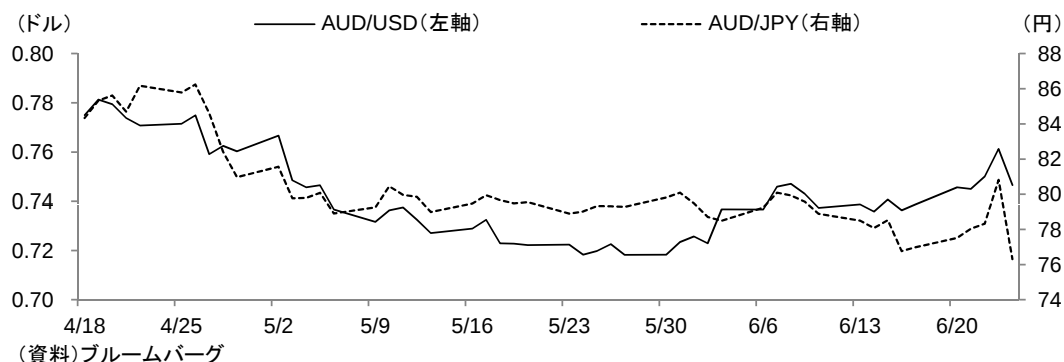
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は対ドルについては週後半にかけて上昇するも、英国国民投票の結果を受けて急落した。対円についても国民投票直前までは底堅く推移するも、結果発表後に急落する展開となった。前々週末、英国のEU離脱(Brexit)を巡る国民投票の世論調査にて残留派がリードとの報道に離脱懸念がやや和らぐと、週明け20日のシドニー市場ではポンド/ドル・ポンド/円と同様に豪ドル/ドル・豪ドル/円も、週末終値より高い値で取引が開始された。ポンドのショートカバー優勢の展開につられて豪ドルは買いが先行し0.73台後半から0.74台後半水準まで上昇した。翌21日には豪州準備銀行(RBA)議事録が公表され、「6月の金利据置き決定は消費者物価指数(CPI)の目標回帰に合致」と述べられたことが次回以降の利下げ観測をやや後退させ豪ドルはじり高となると、同日米国時間にはポンドの底堅い値動きにもサポートされ一時0.75近辺まで上昇。イエレン議長の議会証言は特段目新しい内容は見当たらなかったが、英国の国民投票を控えて豪ドルには利食いの売りが入り0.74台半ばまで緩む場面も見られた。23日、東京時間に再び英国国民投票に関して残留派優位との世論調査にポンド急騰につられ豪ドルも0.75ちょうど近辺から週高値となる0.7650まで急伸。しかしながら、英国国民投票にて離脱派勝利が決定的となりポンドが崩落すると、豪ドルは週安値となる0.7305まで、豪ドル円は24日の高値圏81円台半ばから72円台半ばまで急落。その後はクロス円に利益確定の押し目買いが入り、豪ドルは0.74台半ば、豪ドル円は76円台まで買い戻されて越週した。

今週の豪ドル相場は方向感に乏しい展開を予想する。一義的には、英国のEU離脱決定を受けたポンドの軟調地合がポンド同様に高リスク通貨とされる豪ドル相場の重石となろう。ただ一方で、英国のEU離脱決定はFRBの利上げスタンスをより慎重化させることが予想され、今月のFOMCはもちろんのこと9月会合での利上げ観測も大幅に後退した。したがって、米金利の低位推移、米ドル軟調地合が見込まれ、こちらは豪ドルのサポート材料となる。英国発のリスク選好度の悪化は念頭に置かざるは得ないものの、先週末にはG7より共同声明が出されており、市場参加者はポジションを一方に傾けづらく、豪ドル/ドル・豪ドル/円は方向感に欠ける展開を予想する。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(6/20~6/24)の値動き: (対ドル) 安値 0.7305 高値 0.7650 終値 0.7460
(対円) 安値 72.53 高値 81.62 終値 76.31



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。